

No 1

突然の石便り 失礼致します。

石此い、先玉にどうかおとも思ったのですが、長尾先生の
著書を拝読させていただき、こんな先生に夫を石願、したいと
言うか石願、出来ればと強く思ったものでした。

遠いのでもちろんそんは出来ませんが、何度も先生に手紙を
書いては止め、こうこうしているうちに 今年 夫は

で永眠致しました。 による でした。

最後の入院は去年の 月 日からで、一、二週間の予定でした。

症状は 吐き気と食欲不振です。 のどの痛みも ずっと有りました。

その入院中の夫にとって何か 一番良いのか、おとくえて迷っていました。

また主治医に不信感も持つようになったので、ご迷惑かと思っ

ましたが書く事にしました。

亡くなる 1日前にも書いたのですが、投かん出来ず、書き直して
本日に取りました。

亡くなった今では もう どうしようもないのですが、どうしても

納得いかない事と夫に対して申し訳ない気持ちで、心の整理が
出来ずにいます。

H25. 5月、食道癌が見つかりました。 5-1~2

胃のポリープの除去で入院中に。

(3月に内視鏡による検査は受けましたが、その時は何も
言われず)

食道癌は放射線治療と抗がん剤治療で、と云う事を

162.

私たちは遷換しました。

入院で4回抗がん剤。通院で4回受けました。

(426-8月再発のため)

途中 427. 4月末頃から胸が痛くなり亡くなるまでずっと痛みは
続いていました。

耳鼻科でも診てもらいましたが胸はさしいでどうもなっていない
と云われ、主治医も抗がん剤の副作用かリンパから来ている
(リンパに77出ていました)かもしれないと云われ、オキムンや
オキシコチンを服用していました。

えらうり味付きの物や固い物は食べられなくなり、体力も
落ちて来ました。

それで 427. 11月20日に点滴で栄養をとる事で入院と
なりました。

主治医は「10月15日の画像では見た目大丈夫だったけど……」と。
しかし胸の痛みは治らず、食べる量も少なか

428. 1月14日、主治医は2週内ぶりに病室へ来られ
「急にこんなやせて……」と、涙か出さずおのショックを受けました。
また、痛みに耐えられないから痛み止めをとると「薬薬と
して薬中毒のようだ」と云われました。

夕にも出る。胸の痛みも訴えるので主治医と話し合いと申し出て
16日に会って下さい。いきなり胃ろうの話になりました。

栄養状態の改善で2~3か月で外せるといふ事で、本人も納得し
18日に胃ろうの手術を受けました。

163

その時「思ってたより悪い」と主治医。

27日、院内で主治医とバリエーション。夫の事を「おねたから一連一環
であらね」と云われ、あとどのくらいか聞くと「看頃まででしょうか」との
事でした。

日、いつも通り朝病院へ行くと夜中にトイレで倒れていた
とかで回復室へ移っていました。しばらく居て帰ったのが夕方
夕方病院より電話があり「意識が低い、呼吸が止まっている」
と云うような事を云われ、病院へ駆けつけた時はすでに亡くなって
いました。家族も誰一人も側に居なくて一人で逝った事を思ひ
夫に申し訳なくしてはなりません。

長尾先生があつたように、自宅で寄り添ってとも思っていたのに
平穩死を望んでいたのに全くちがう事になってしまい、自分を
責めています。その日は主治医は東京へ出張とかで居らん
なかつたのでお通夜に来て下さいました。複雑な気持ちです。
総合病院で患者さんを深山にかかえておられ、時內的にも除力が
ないのも十分解かりますが、二週内にも回診に来ておられないと
いうのは有るのでしょうか。

夫の痛みで薬を求めると夫に薬中毒のようだとおは...長いお付き合いで
お世話になっている先生とお云え残念でなりません。信頼していただけに。
葬儀も終り色々な手続きを(だからも)おつと不信感がぬくえぬ
気持ちの整理も出来ません。

主治医と会って気持ちを伝えたいと思った(このまま命をを受け
入れて...と思った)心が揺れ動いています。

№4

何か一言でもアドバイスをいただければ幸いです。
でも、こうして長尾先生に手紙を書いてずいぶん楽になりました。
長々と支離滅裂な手紙となりましたが、最後まで読んで
下さってありがとうございます。

これからの先生の ご健康と ご活躍を心より
お祈り申し上げます。

H27. 2月10日

長尾和宏先生